北海道立北見北斗高等学校―同窓会会報誌 Vol.5

東京とどの実

北海道廳立野付牛中学校
北海道廳立北見中学校
北海道立北見高等学校
北海道立北見北斗高等学校

第83会全国高校ラグビー選手権大会出場！

6月7・8日は第51回の関東高校ラクビー大会のため、残念ながら欠席させて頂きます。この4月に全国高校選抜ラクビー大会が熊谷で開催され、母校北見北斗が出場しました。1回戦に四国の津山工業に負けてしまいましたが敗者戦で広島工業に勝利して少しホッとしました。来年の埼玉国体まで埼玉県ラクビー協会の理事長として頑張っていこうと考えています。

38期 尾崎 良巳

母校ラクビー部は第83回全国高校ラクビーフットボール大会に北北海道代表として4年振り33回目の出場をはたしました。全国の精鋭52校の中で、12月28日花園ラクビー場で一回戦広島工業高校と対戦し、実力を発揮できず0―46で敗退いたしました。また一回戦の壁は破れませんでした。結果は残念でしたが、全国のレベルの高さを実感し今後の練習に役立つと思います。高校ラクビーのメッカ花園を体験したことは、生涯に青春の思い出として残ると信じます。

27期 宮井 国夫

「東京とどの実会」53周年の集い

2003年6月7日於／グランドアーク半蔵門

第53回東京とどの実会の集いは、東京の気候が一番快適な6月初旬、皇居に隣接するグランドアーク半蔵門で開催されました。「野付牛・北見に受け継がれてきたたくましいDNAの下、脈打つ“道産子”のフロンティア・スピリットを呼び起こす場」「何か一つ、新しい発見をお土産に持ち帰れる場」の呼びかけに500名の同窓生から返事を頂き、140名の出席を得ました。

宮井会長と東京とどの実Vol.4の表紙を飾った40期長谷川知子さん

宮井会長挨拶

「今日の機会に、母校を同じくする皆さんが、新しい出会いと新しい発見を見つけることが出来るよう期待しております。どうぞ若き日の思い出や故郷の話をお楽しみ下さい。」そして、母校の80周年の話、記念募金の結果報告とともに、白川本部会長の急逝に触れられ、心からのご冥福をお祈りされました。また、母校の校長に39期の橋本定彦さんが着任されたこと、卒業生の進路、特に東京芸大・ピアノ科に入学した生徒の話題を述べました。

受付の風景

『北見のひとよ』を熱唱する古賀恵美子（柏陽出身）さん

司会は45期の自閑博巳くんと関根（阿部）美津江さん
写真は左から37期半田護幹事長、中締めの39期村田由美子さんも

万歳三唱の24期桂教夫名誉会長と3期吉見一郎さん

恒例の皇居一周ミニ強行遠足は、18名が参加、一汗を流しました。

談笑風景

物故者

◆平成15年5月6日以降

第十回・十一年卒	石川 茂
第十回・十一年卒	古田 久三郎
第十一回・十二年卒	圓乗 豊
第十三回・十四年卒	梶川 泰夫
第十三回・十四年卒	三浦 正人
第十四回・十五年卒	照井 貞夫
第二十一回・二十一年卒	古河 智
第二十二回・二十二年卒	福地 行夫
第二十二回・二十二年卒	峰岸 雅夫
第二十五回・二十五年卒	三林 賢蔵
第三十四回・三十四年卒	市原 敏光
第五十六回・五十六年卒	前田 美智世
第五十九回・五十九年卒	虎谷 聡

編集部 後記

やっぱり、北見北斗高校はラクビーですかね、進学校、少子化、ひ弱な子供と言われながらもこの勇姿！嬉しいですね。各期の会合紹介、どんどん写真と文を送ってください。

昨年の返信葉書からは、若い世代の感想・意見を載せました、会の継続性の一助になれば幸いです。（25期 林忠生さん、ごめんなさい「強行遠足の思い出」を、今回載せられませんでした）

6月5日はたくさんの同窓生が集まります様に！

♪ 北見のひとよ

歌：EMIKO　作詞作曲：小櫻崇策

オホーツクブルーの　仁頃の青い空
華麗に紅い　エゾミソハギが
あたり一面　ほのかに香る
ハッカを忍ばす　愛の園
心安らぐ　癒しの花模様
ああ　ミントの北見のひとよ

41期　小櫻陽一

「…大頑張り、立派にやりとげましたね。心からおめでとうと云います。…とてもいい歌ですから、今後ともガンバレ！」新年早速に大先輩の師、宮川泰先生からありがたい励ましのお便りを頂きました。

地元では、神田北見市長・北見観光協会・関連団体・各企業・北海道新聞・伝書鳩と多くの方々に支援されて、イベントでは素晴らしい振り付けも披露されております。そしていよいよ、有線放送にも北海道から沖縄まで全国に流され始めました。

「北見ここにあり！」我々CDプロジェクトチームは、愛するふるさとを大いに自負し、まちの活性化に向けて、心新たにこの応援歌を広報宣伝し、好発信します。

皆さんリクエストよろしくお願いします。

◎全国
0120（709）301
◎首都圏
03（5420）3001

入学から終戦迄の中学校時代

22期　梅澤　廣行

私達21・22期は太平洋戦争勃発の翌年昭和17年に野付牛中学校に入学した。6月市制施行により北見中学校となったが、この写真は全校生徒が11月創立20周年を記念に撮ったものである。生徒数は5年生迄凡そ800名で私達1年生200名は前列に位置している。先生方は格式の高いモーニング姿で中には羽織袴の方も見られ、生徒は制服制帽で整然と並んでいる。教頭のお隣は陸軍省から軍事教育に出向して来た軍人で当時の世相を反映している。私達1年生はABCDの4クラスでA組は身長の高い人、B組は低い人、C組はツベルクリン陽性の人（当時の医学で病弱と見なされた）、D組はその他の人と、どなたが考えたのか今迄に無い全く妙な分け方だった。

入学当初日本軍は東南アジア等各地で連戦連勝し、人々は戦勝に酔いしれていた。然し翌18年に2年生になった4月に山本五十六連合艦隊司令長官の戦死、アッツ島の全滅等形勢が少しづつ変わって来た。この様な戦時中であったが授業は普段通りで強行遠足等も支障なく実施された。

3年生になった昭和19年日本軍は一転して守戦を強いられて来た。3月に中学生の勤労動員令が発令になった。壮年男子の人は徴兵徴用に赴き国内産業は人手不足となりこれを中学生で補充しようと云う訳だ。

北見中学の全校生徒が動員になり、私達の期は滝の上・上湧別・興部等の農家に分散し泊り込みで援農作業に従事した。伸び盛りの為か澱粉餅、きび餅等がうまかった。秋頃援農から校舎に戻り、授業が再開された。然し年明けて又勤労動員に行く事となった。ある人達は美幌・訓子府・北見の貨物自動車会社に、又ある人達は置戸・イトムカの野村鉱業所水銀鉱山に、又ある人達は留辺蕊の国有林に動員された。私は北見貨物自動車に配属された。北見1条東3丁目と記憶するが自宅からの通勤だった。トラックの助手で車の整備・荷物の積み降しが仕事である。当時のトラックは朝エンジンを始動させる迄1時間位準備作業を要し大変な苦労だった、又荷物は鉱石・木材等が多く積み卸しは中学生にとって困難だった。月に何回か軍事教官が北見貨物に来て木銃で相手を突く教練を繰り返し練習させられた。

4年生になった昭和20年4月には米軍が沖縄に上陸し授業は全く停止となり、私達は北見貨物で動員を続けていた。運転手は益々不足し私達助手はとうとう運転手を兼任する事となった。無免許でトラックを運転し常呂・仁頃地方を走り廻った。

その年8月に太平洋戦争は終結し、分散していた私達同期は漸く校舎に戻った。2年間の勤労動員だが特筆すべきは全員無事故だった事である。危く難を逃れたとの経験談は後で何人から聞いたが全く幸いと云うより外は無い。

学徒動員は太平洋戦争に翻弄された出来事だった。二度と無い大事な若い年代に学業を停止した事は勿体なかった。今の平和な時代が一番の幸せで、永く続く事を切に祈って止まない。

34期・東京地区同期会のこと

34期　滝川　忠正

昭和52年7月16日夜、暑い夜だったと記憶している。うどんすきの店「美々卯」の東京・新橋店に18人が顔を揃えた。なかにまだ十分マドンナの女性2人もいた。昭和34年に北見北斗を出て18年、それが、東京地区34期同期会の始まりだった。年齢は36歳か37歳、それぞれ働き盛り。あまり腹の出た者などいなかった。まだ髪も黒々、ふさふさしていた。大半は北斗を出て初めて会わす顔だったが、ほとんどが往時の面影を残しており、すぐに誰と知れた。

それから27年、同期の集まりは毎年続き、今年で28回目を迎える。いまは還暦を3年ほど過ぎ、温泉に入っても、ほとんどが腹部に贅肉を抱え、頭も白いのやら、光るのやら、年は隠せない。最初は都内で集まっていた。年々盛んになり、昭和56年に熱海、60年に伊豆、63年に房総などと時おり1泊旅行を重ねたあと、平成2年の城ヶ島からは1泊旅行が慣例になった。都内で催した時も二次会がセットされてはいたが、なんとなく飲み足りず、語り足らずといった感じだった。それで、泊りがけで夜っぴて飲み明かすようになったわけだ。遠くは、青森、愛知、長野からも馳せ参じ、東京地区というより、「内地」地区同期会の観もある。昨年は、熱海に47人（うち元マドンナ9人）が集まった。過去最多の参加者だったが、これは、後述する5年ごとの北見地区、札幌地区の合同同期会を翌年（つまり今年）に控え、その参加を促すキャンペーンのため、北海道組が15人ほど大挙して参加してくれたことによる。今年も4月3日から4日にかけ、伊豆高原で催されるが、35人（うち元マドンナ6人、北海道組3人）が参加の予定だ。

この同期会、盛会を極めているのは、幹事役に恵まれたことによる。幹事は原則2人で毎年交代しているが、この会を企画して以来ずっと、裏方で骨を折ってくれたのが、土田光義君だ。東京周辺に出てきている同期生の把握に始まって、名簿作りや、会場設定の相談に乗ったり、とにかくそのマメなことといったらなかった。最初のうちはワープロ、やがてパソコンと、勤務先の機材を駆使し、毎回、出席者リストや校歌、欠席者の近況報告などが入った立派なプログラムを作成、配っていたのも土田君だった。宴席は、そのプログラムを見ながらの校歌や応援歌斉唱で始まるのが常だ。この会が今日あるのは、土田君の功績によるところが大きく、われわれは彼を「終身幹事長」と呼んでいる。最近は毎年、都内で忘年会もやっており、この方も結構な人数が参加している。もうひとつ付記すると、昭和58年と平成元年に、それぞれ「北斗からの道」「北斗からの道・第2集」と題する文集も出版している。これも、原稿集めなど土田君の力が大きかった。

まだ現役もいて、毎年の例会は土曜から日曜にかけて開かれているが、年金生活者が増え、そろそろ平日でもいいのではないかという声も聞かれる。そうなった場合は、34期にちなんで「北斗・三四会」とし、毎年3月4日集合ということにしてはどうか、という案も出ているが、いずれにしてもまだまだ隆盛は続きそうである。

38期卒業40周年記念同窓会と恩師の墓参り

38期　岡崎　勇

40周年記念同窓会が昨年10月11日、温根湯で開かれました。恩師の蓑口一光先生を迎えて、北見を中心に全国から総勢114人が参加。車座になって、お互いの生活や仕事などを交流、交歓は夜ふけるまで続きました。卒業当時の年齢と比べ、40年間という二周りにも及ぶ人生街道をひた走ってきただけに、その喜怒哀楽にふれながら、参加者は元気をもらいました。

同窓会の翌日は有志とともに、いまは亡き恩師、宮井輝男先生の墓参りをしてきました。お墓は自然と森林に包まれた置戸で、紅葉の彩やかな木立に囲まれた丘の上にありました。墓前で手を合わせ、「人は完全でなく、それぞれカドを持っている。人生にとって大切なのは、そのカドを削って丸くなるのではなく、それを含めて生きることだ。」宮井先生のこの言葉は、今でも忘れない。また、私たちに誠実に向い合い、一緒に考え、1つ1つ答えを引き出してくれた真剣な姿も・・・。合掌。

昨年の返信葉書から

会報誌ありがとうございます。同級生の長谷川さんの作品が載っていて懐かしく、嬉しく思いました。
40期　岩淵　智子

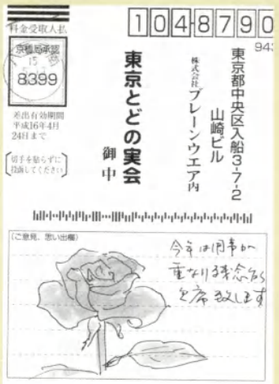
北斗高校の校舎が改築されたのですね。会報誌の写真で拝見。「降る雪や明治は遠くになりにけり」ではない、も早「昭和は遠く。。。」になりそうで一寸淋しいです。卒業50周年の集りには行けなかったけど、なつかしい青春の日々を心に刻んでおきます！　27期　中原和子

いつも有難う御座います、土日は自営業なもので、なかなか休みにくいので、欠席させていただきます。
57期　金子　吉孝

一度参加してみたいと思うのですが、知っている方のいないところが苦手でなかなか参加できないでいます。　51期　土屋　春美

とどの実会のご案内と会報誌をご送付頂き大変嬉しく拝見、ありがとうございました。稀に帰省する故郷北見の、東京では見つからない、澄んだ空気と夜空の北斗七星を懐かしんでおります。
33期　浅見　愛紅

今年もご案内をいただく季節になったのですね。60才の日々を元気にしかもかなり積極的に生きています。冬のスキー年間を通しての英会話学習と時間が足りないと思うこのごろ。旅行、洋服づくり等々楽しいことの多い幸せな「今」です。
37期　小林　公子



41期　渡辺恵子さんよりの絵手紙

参加2回目です、昨年思いきって参加し、多くの出会いがありました。今年は、親戚の子（♂）が、北見北斗に入学する事ができ、さらに身近に感じています。連絡いつもありがとうございます。
47期　五位淵　瑞代

とどの実Vol.4に音楽の新開先生と混声四重奏がのっていました。私は、小学中学にかけて、ピアノを新開先生に習ったことがあり憧れの先生でした。今はどうして居られるのでしょうか？又ニュースで知らせていただければと思います。
31期　植村友子

北斗といえば強行遠足。いつも思い出しても、つい最近の事の様に思い出されます。ミニ強行遠足、いつかきっと参加してみたいと思っていますので是非続けていただきたいと願っております。
48期　渡辺　則子

もう少しゆとりが出来たら参加させていただきたいと思っています。まだPTAなどで忙しいので。。。
50期　村上　幸子